

One River Basin - Arakawa & Basic Tonegawa

「私のまちに流れる水」作文コンクール事業概要

1 事業の根拠

認定NPO法人水のフォーラム定款 第3条（目的） この法人は、水を学びたい市民に対し、水に関わる情報提供を行い、人と水との関わりの再構築に寄与することを目的とする。

2 事業実施に至る経緯

当NPOは2001年発足以来、河川法等さまざまな法律により分断されている荒川（旧利根川含む）流域の多様な水を横断的・総合的に学び、その総括として2009年に『荒川流域を知るⅠ』、2022年に『同Ⅱ』にまとめ、当活動の第1ステージとした。当活動第2ステージとして、これまでの20年余の学習成果をより広く一般に啓発普及する事業を検討する中で、荒川流域（旧利根川流域含む）の小学校高学年を対象とする「作文コンクール」に至った。

3 事業主旨（目的）

水は流域を単位に流れ、山から平野を経て海までつながっている。その一部である身近な水に着目し、その水がどこから来てどこへ行くのか、都市の子どもは水道の水でもトイレの水でも良いし、近くに田があれば、田の水がどこから来てどこへ行くのか、近くに山があれば、山に降る雨はどのような経路で沢に出てくるのか、大雨が降れば、その大水はどのような場に滞水し、どこへ去ったか、子どもの視点で専門家に学び、図に起こし、感想を一文にまとめる。

一連の作業を通じて、水使用にあたっては上流に感謝し、下流に配慮する気持ちを育て、そこでの思考を暮らし方・都市のあり方にまで広げ、局地的豪雨に対しても日頃から避難体制を身に着けるなど、水に対して賢く、強靱な住民が増えることを目的とする。

4 事業期間 令和5年度～令和9年度の5ヵ年（見直し期間として）

5 事業主体 専門性を越えた視点が必要なため、行政の助言を得ながらも当NPOの事業とする。

6 募集対象 荒川流域（旧利根川流域含む）の小学校高学年。

7 事業概要

（募集～作文完成）

- ①「くるる調査隊-10EYES（以下、子ども記者）」を募集。希望者は身近な水に着目し、自分の考えを原稿用紙1枚程度にまとめ、応募。
- ②応募原稿の着眼点や地域性を考慮し、10名の子ども記者選出。各記者に取材先・取材日時を取材先とも調整し、紹介。併せて取材内容、心得等をアドバイス。
- ③取材先で、取材内容を指導者の協力を得ながらコメント付きの図に作成。
- ④図を清書し、水の流れについて、また一連の取材体験を「感想文」にまとめ、事務局に送付。

※「作文コンクール事業手順」及び「くるる調査隊-10EYESとは」参照

(文集等上梓)

- ①子ども記者 10名の感想文を編集し(図はカット使用)、『文集』作成。
- ②子どもも読める『荒川・旧利根川流域の川の履歴書』(全5巻シリーズ)作成。
- ③上記いずれも(A4変型、総頁24ページ、発行部数各1,000部)、子ども記者・取材関係者・事業協力者ほか広く一般に配布。

8 実施体制

事業実施において助言等を提供する「作文コンクール実行委員会」を設置する。
委員の条件は流域の水循環の啓発普及に賛同する者。発足時は水のフォーラム賛助会員及び協力者とする。

※発足時の委員は附記に記す。

9 子ども記者選出審査

委員長 藤原梯子(認定NPO水のフォーラム理事長)

委員 作文コンクール実行委員会

水のフォーラム正会員(国交省OB、農水省・水資源機構職員含む)

10 子ども記者取材対応協力

国交省荒川上流・下流河川事務所、利根川上流・江戸川の各河川事務所

埼玉県土整備部河川砂防課・同企画財政部土地水政策課

埼玉県農林部農村整備課/見沼代用水・葛西用水路・大里用水土地改良区等

独立行政法人水資源機構 等

11 発表会

子ども記者10名に「流域の水調査に対する感謝状」贈呈

副賞 ①『文集』(知事寄稿、取材記、講評。奥付に協力者・寄付者一覧を掲載)

②『荒川・旧利根川流域の川の履歴書』(水のフォーラム編集・発行)

③流域立体地図(荒川上流・下流、江戸川河川事務所提供)

④「見沼田んぼ」保全活動による収穫米

12 事業費

流域の水循環の啓発・普及に理解ある企業・個人の寄付を募る。

寄付金募集 募集方法は検討中だが、各年予算を1,200,000円とした。

※別紙予算書参照

寄付募集期間 令和5(2023)年1月1日～令和9(2027)年12月31日

13 後援 (令和4年度末現在)

埼玉県、埼玉県土地改良事業団体連合会、国交省関東地方整備局(承認)

農水省関東農政局、独立行政法人水資源機構(手続き中)

浦和・浦和東ロータリークラブ、埼玉経済同友会等(順次依頼)

14 運営事務

水のフォーラム事務局

附 記

令和5年度実行委員会委員名簿（敬称略、ア行エ順）

委員	近藤 徹	建設省建設技監、水資源開発公団総裁、土木学会長、応用生態工学会会長等歴任。現在、東京工業大学生命理工学院テニユアトラック講師。埼玉県行田市在住。
〃	坂村 圭	「見沼田んぼ」市民協働の保全活動等をテーマに博士号取得。現在、東京工業大学准教授。
〃	末松広行	農水省関東農政局長、農水省事務次官を経て現在、東京農業大学特命教授、東京大学客員教授。旧浦和市出身。
〃	中津原努	NPO法人都市づくりNPO さいたま理事長。「さいたま百景」市民選定委員会事務局長。
〃	虫明功臣	水文・水資源学会会長、日本河川協会会長等歴任。現在、東京大学名誉教授、福島大学名誉教授。
〃	脇 雅史	建設省近畿地方建設局長、自民党参議院幹事長を経て現在、脇雅史政策研究会代表。